

事務事業名		下水道施設維持管理事業(管渠)			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	02:自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目				
	施策名	05:環境の保全と共生					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02:港湾・河川環境の保全					13	01	01	02	01
根拠法令	下水道法、大船渡市下水道条例										
所属	部課名	都市整備部下水道事業所			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成7 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	建設係	電話	0192-27-3111							
			内線	198							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 下水道の管渠施設は、各家庭や企業から排出される汚水を浄化センターまで流下させる施設であり、ほとんどの施設が地下に埋設されることが多いので、適切な管理をしなければならない。下水道台帳に関しては、下水道管理者に下水道の管理を適正に行わせるため、その管理する下水道の台帳の記載と保管を義務づけるものとして、下水道法23条に規定されている。下水道台帳は、調書及び図面で構成されているが、下水道台帳を整備しておくことは技術的な維持管理の基本的資料となるばかりでなく、住民の苦情処理対策、他の事業者及び関係機関との協議、並びに災害時などにおいて必要となる情報の収集及び提供に役立つことになり、下水道台帳を整備していくことは維持管理上必要不可欠なものである。管渠施設の調書、図面等をデータベース化し、コンピューターで管理する事業。 主な業務は、下水道台帳の整備(委託)、管渠修繕(委託)。事業費は、台帳整備委託費と管渠修繕委託費として支出される。						全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
平成21年度下水道管渠整備(L=7,330m、A=36.2ha)の台帳整備		ア	台帳登録できた管渠整備面積 ha
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
平成22年度下水道管渠整備(L=3490m、A=18.9ha)の台帳整備		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・下水道台帳(管渠の調書・図面等の情報)		名称	
・突発的な不具合の生じた下水道管渠施設		単位	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		カ	台帳登録すべき管渠整備面積 ha
・現況を正確に記録し、必要ときにすばやく提供できる。		キ	突発的な不具合の生じた下水道管渠施設箇所数 箇所
・できるだけ早く復旧する。		ク	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
・港湾・河川への環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。		名称	
		単位	
		サ	台帳登録できた管渠整備面積 / 台帳登録すべき管渠整備面積 %
		シ	不具合管渠修繕対応率 %
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	4,028	12,710	11,294	12,143	13,457	13,391
	一般財源	千円						
	事業費計(A)	千円	4,028	12,710	11,294	12,143	13,457	13,391
	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	100	100	100	100	100	100
投入量	人件費	千円	400	400	400	400	400	400
	人件費計(B)	千円	400	400	400	400	400	400
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,428	13,110	11,694	12,543	13,857	13,791
活動指標	ア	ha	260.5	298.2	319.8	357.8	394.0	412.9
	イ							
	ウ							
対象指標	カ	ha	1,402	1,402	1,404	1,404	1,404	1,404
	キ	箇所						
	ク							
成果指標	サ	%	18.6	21.3	22.8	25.5	28.1	29.4
	シ	%						
	ス							

事務事業ID	0708	事務事業名	下水道施設維持管理事業(管渠)
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

平成6年度の大船渡浄化センターの供用に伴い、管渠の維持管理が必要となった。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

下水道台帳に関しては変化なし。管渠については、今までは使用年数や流量等が少なかったために、管渠内部の清掃等は必要としなかったと言うことで清掃しなかったが、19年度より、供用を開始してから10年以上経過している管渠(茶屋前地区)の清掃を実施中である。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

維持管理に対する意見等は、今のところなし。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 下水道の整備に対する住民の期待は大きく、生活環境の改善と公共用水域の水質保全のためには、無くてはならない事業である。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 同事業の維持には、本施設の維持管理が不可欠であり、下水道法では適切な管渠の維持管理をするため、下水道台帳を整備することと定められている。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 現状維持
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 台帳作成業務は委託業務となっており、見積もり入札によって業務委託されている。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 事業を廃止した場合、適切な汚水処理ができなくなり、住民生活、自然環境等に多大な影響がある。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 市の事業として類似事業はない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 下水道台帳は、コンピューターによるデータ管理となっており、今後もシステムの変更等は考えていない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 委託業務である。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 整備をして供用開始をした住民からは、受益者負担金を納めていただいている。

事務事業ID	0708	事務事業名	下水道施設維持管理事業(管渠)
--------	------	-------	-----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 特になし																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 下水道台帳に関しては変化なし。管渠内部の清掃に関しては18年度まで実施しなかったが、19年度は供用開始後10年以上経過している管渠を対象に実施し、今後も継続する計画である。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 下水管渠には、各家庭・事業所よりの排水がダイレクトに流れてくることから、油類などを流さないように広報に掲載するなど、啓発活動をしなければならない。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	下水道事業所長
-------	---------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																							
記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	下水管については平成19・20年度に単独費で管渠の清掃を実施している。施設の維持管理上必要な事業である。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今後、補助の導入に向けて長寿命化計画を策定する必要がある。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
